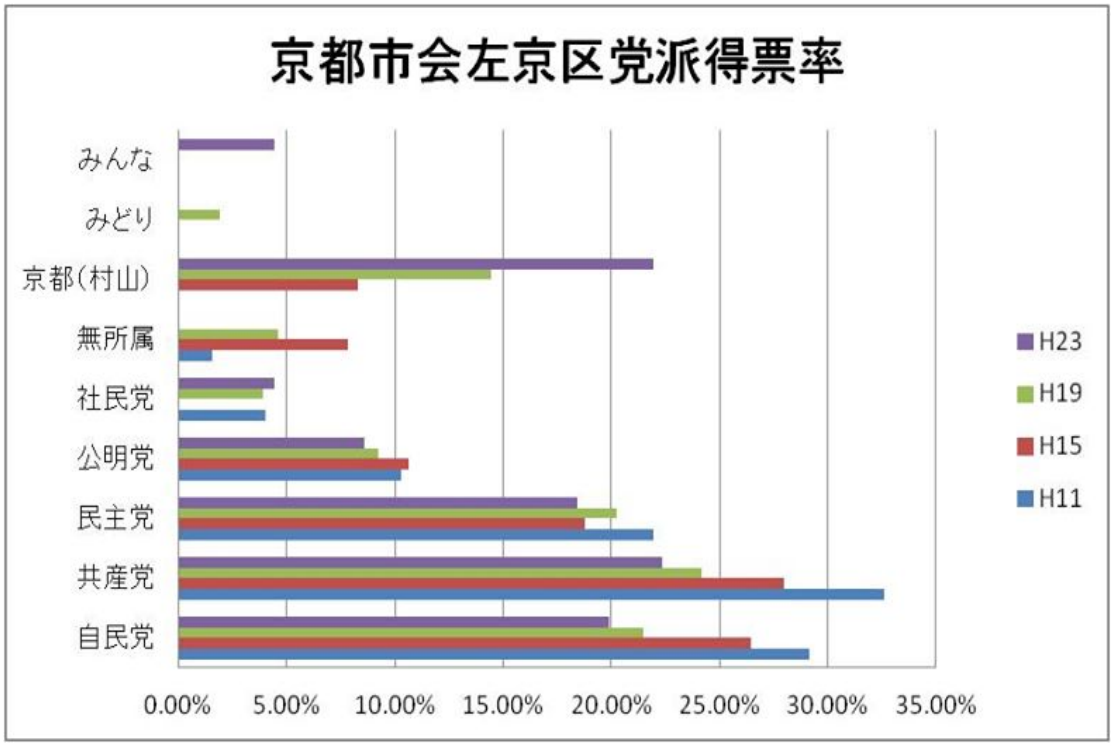
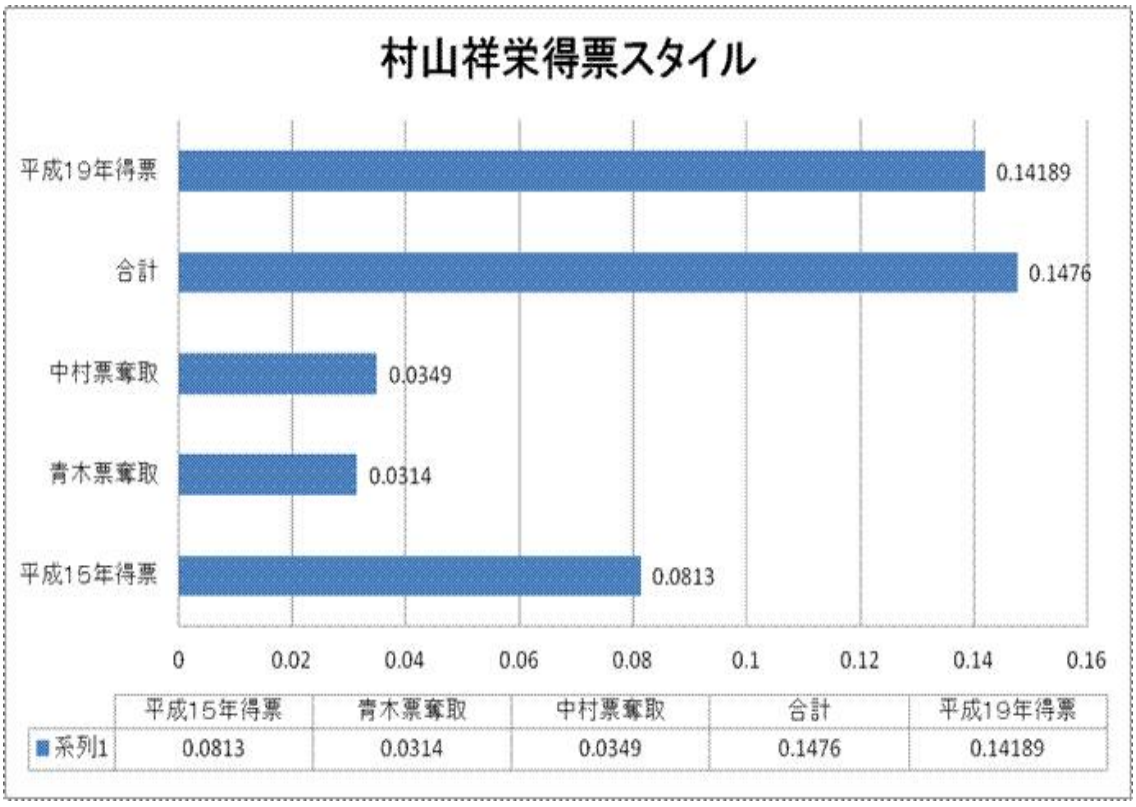
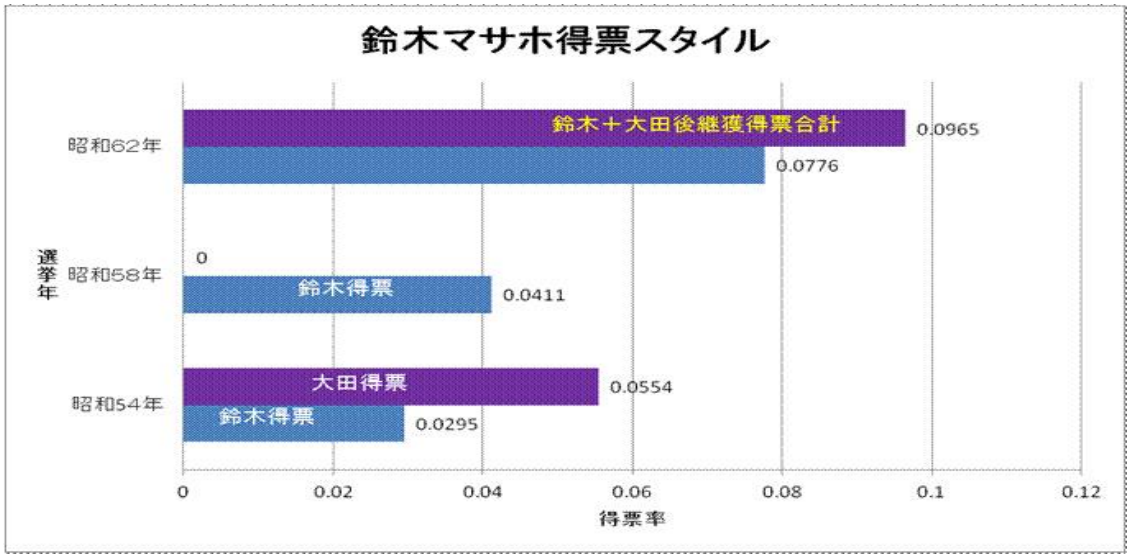
左京区市議会選挙事情。数字を見ていろいろ並べてみてきましたが無所属新人で当選するには三つの方法しかないんですね。一つは数回の立候補を重ねて党派の後継候補になる（鈴木方式）、二つ目は組織党派の候補者となる（共産や公明方式）、三つ目は政策主張が改革をもたらすためには従来の保守・革新と違う切り口を持つ（村山方式）というところでしょうかね。あくまでも投票行動の数字からの判断ですが。表の最後は直近４回の各党の得票グラフです。



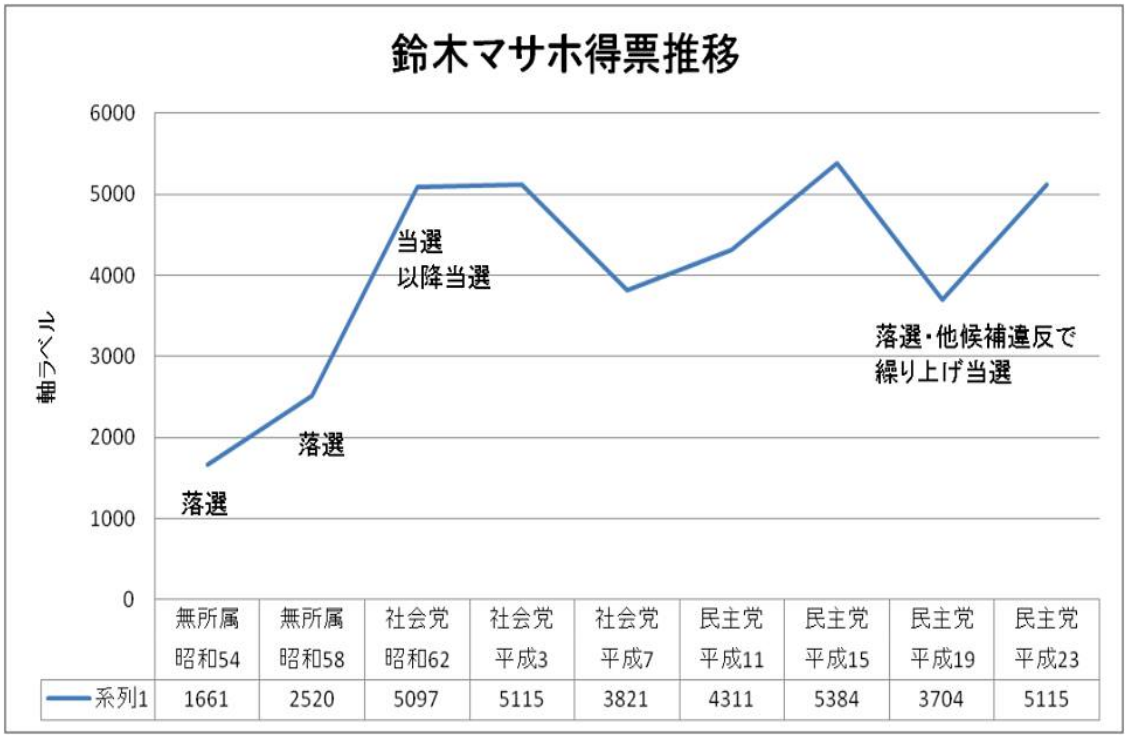

左京区市議会選挙事情。無所属新人として５００４票を平成１５年選挙で当選した２０代の村山祥栄さん。議会や行政を批判するスタイルはどちらかというと当時の野党を思わせました。しかし選挙公報などや演説を聞くと従来の社民や共産党とは違った切り口でした。つまり既得権益がなかったことからきわめて痛烈に批判できたと思われます。そして推薦する人たちの顔ぶれを見るとどちらかというと中道・保守寄りのようでした。それは平成１９年の選挙で明快に出ています。つまり保守票を引き寄せたのでしょう。この選挙では青木善男さんの弟さんが後継で出たものの２０００票を減らしての当選でした。また、民主党を離れた中村十一さんは無所属となり前回を２１５０票ほど減らして落選しました。どうやら村山さんはこのお二人の保守票を取り込んだようで数字が見事に表していました。そして一躍左京区選挙区でトップに踊り出ました。次回選挙は「京都党」のローカル政党を引っ提げての選挙へとなだれ込みました。ただしあくまでも私の数字上からの推測ではあります。



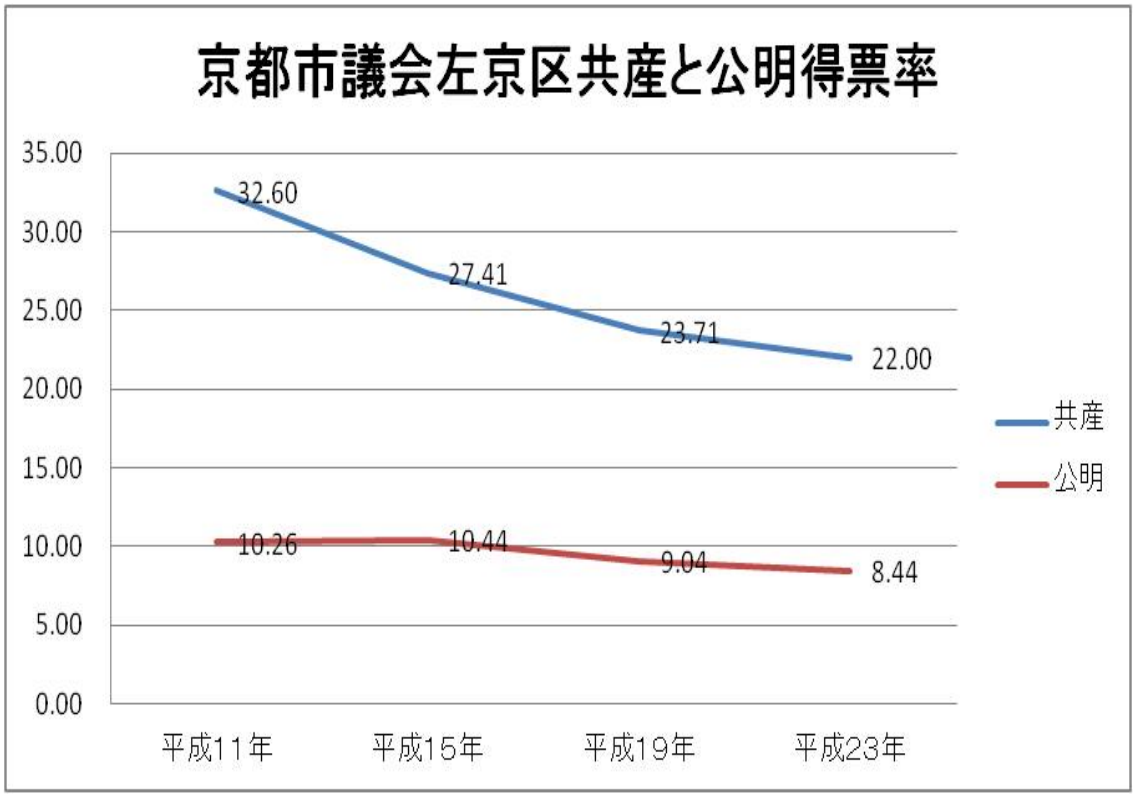

左京区市議会選挙事情。鈴木マサホさんは当初の無所属から初当選は社会党でした。当時の事情でいえば大田光子さんが社会党で当選を続けていました。昭和５４年（１９７９年）の選挙で当選し(得票率０．０５５４）、次回の５８年選挙は立候補しませんでした。鈴木さんは５８年選挙を無所属で２５２０票（得票率０．０４１１）獲得。政策主張が一致して６２年に大田さんの後継という意味合いも兼ねて５０９７票（得票率０．０７７６）で当選しました。これは大田さんと本人の個人票を合わせた率を多少下回りましたが社会党票を加えたことが当選の大きな要因となったと思われます。

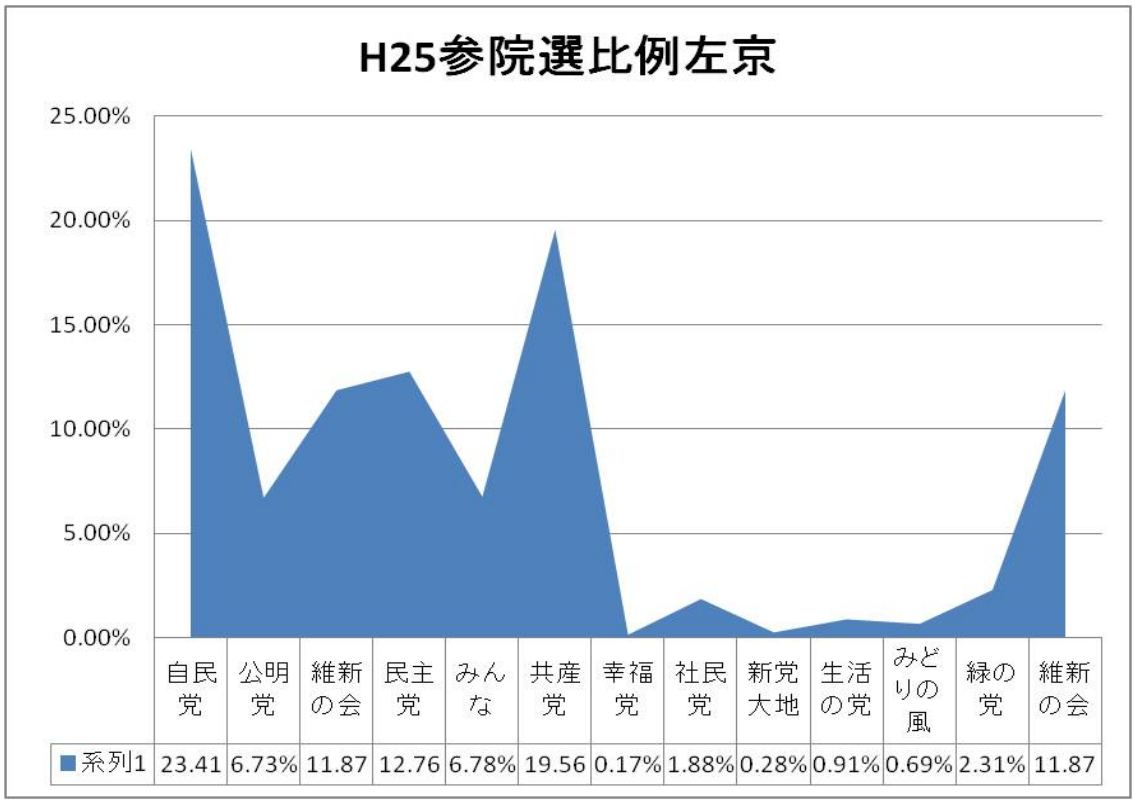


左京区市議会選挙事情。現在最多当選（７期）の民主党鈴木マサホさん。無所属から昭和５４年に立候補し３回目の昭和６２年に社会党所属で初当選。現在民主党。最大の危機は平成１９年に落選。しかし青木善男さんの後継候補が当選するも選挙違反で落選。繰り上げ当選となり連続を維持。私もかかわった初回の１６６１票は市民候補としてアピール。しかし平成１５年の村山さんが無所属新人で５００４票獲得して当選したことは無所属新人としての有権者の投票行動に一つのヒントを与えるともいえる。



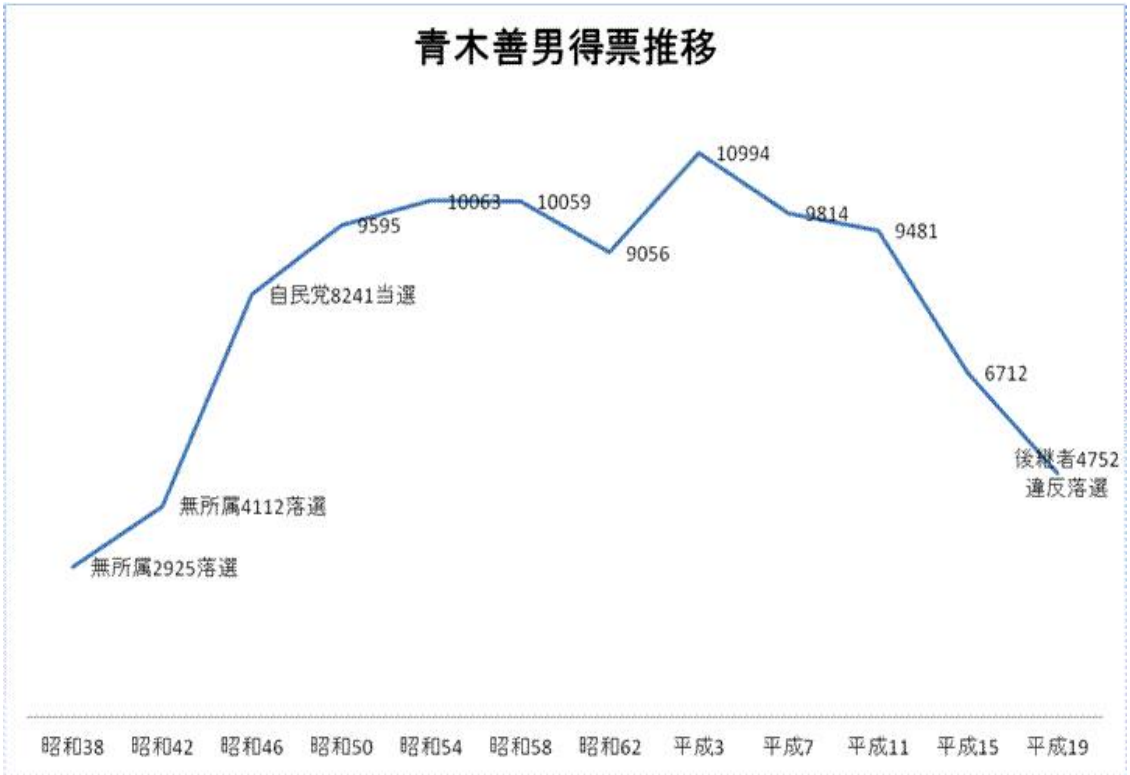

統一地方選来春。京都市左京区の選挙事情を数字で読み解く。組織の票はどうなってるのだろうか。当方が記憶にある選挙が強いとされた組織政党でもある共産・公明はどうだったか。直近選挙で見てみる。共産が下降気味で公明は８～１０％台を維持していてほぼ安定するも少し下降。ただしこれを平成２５年の参院選比例と比べてみるとどうだろうか。参院比例はすべての政党をグラフ化しています。この時共産は１９．５６％で公明は６．７３％。候補者数でこんな％になった可能性もある。



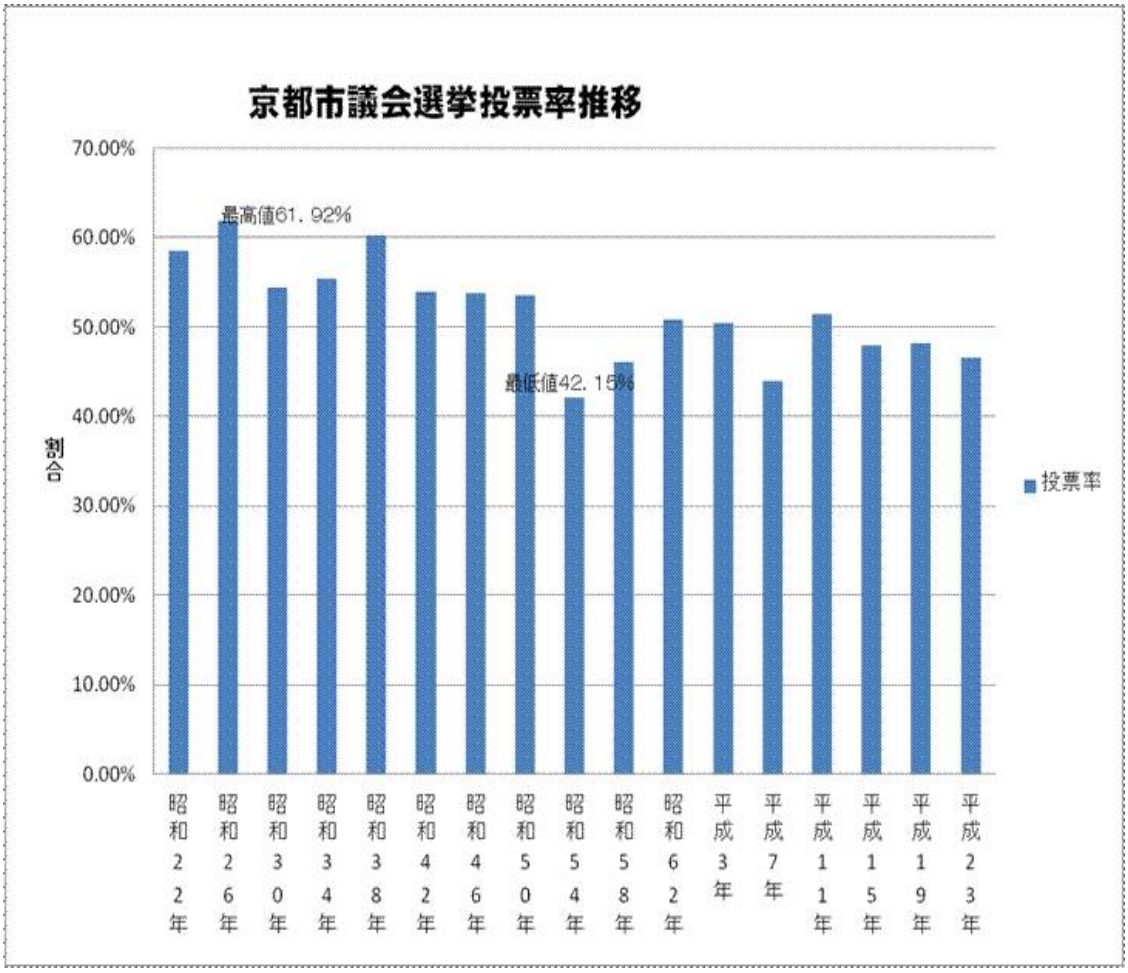




| | 自民党 | 公明党 | 維新の会 | 民主党 | みんな | 共産党 | 幸福党 | 社民党 | 新党大地 | 生活の党 | みどりの風 | 緑の党 | 維新の会 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 系列1 | 23.41 | 6.73% | 11.87 | 12.76 | 6.78% | 19.56 | 0.17% | 1.88% | 0.28% | 0.91% | 0.69% | 2.31% | 11.87 |

京都市会左京区選挙事情。昭和４２年に初当選し以降トップ当選を続けたた自民党の青木善男さんからしてそのまえ２回は無所属からで落選してました。ダントツの得票を維持した方でも苦節の時間が続いたんだな。９回連続トップというスゴ技。平成１５年に一気に２８００票ほど減らして６７１２票でもトップだった。しかし前に紹介した京都党の村山さんが平成２３年に１２，５３９票でトップだったのは青木さんをして獲得できなかった票数だった。




来春の京都市会左京区からロクローさんが出るというのでただ今数字に見る選挙区事情を研究中。数字は面倒だけど面白くもあるね。一番楽しそうだったのは戦後間もなくの昭和22年選挙。なんと定数8人に候補者が34人、昭和26年も定数同じで35人も出ている。くしくも来春選挙は定数が9人から8人になるのでこの戦後まもない時みたいに30人もでるとすごく楽しそうだけどな。今のところおおくて12人くらいかな。懐かしき社会党の末本さん、共産党の安井信夫雄さん、自民党の川井正雄さんの名前が見えました。で、22年からの投票率がこれ。多くて26年の６１．９２％、最低が54年の４２．１５％。直近の３回は５０％より下。政治や行政への行動が低下傾向。


京都市議会選挙投票率推移
70.00%
60.00%
50.00%
40.00%
30.00%
20.00%
10.00%
0.00%
割合
最高値61.92%
最低値42.15%
投票率
昭和22年
昭和26年
昭和30年
昭和34年
昭和38年
昭和42年
昭和46年
昭和50年
昭和54年
昭和58年
昭和62年
平成3年
平成7年
平成11年
平成15年
平成19年
平成23年